

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800086		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	認知症共同生活介護事業所 ゆとり		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町下内田75		
自己評価作成日	平成27年8月5日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	2015年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの環境としては自然の中にあり、四季折々の移り変わりを感じながら、昔ながら農家が多い地域ですのでホームの畑では野菜を育て、栗山では栗拾いをしたりして、入居者様とともに安心できる昔ながらの生活を営むことができる。利用者様・御家族・職員みな家族としてとらえ、自分たちが住みたい理想とする施設づくりに日々努力している。利用者中心の生活を営んで頂けるように、個々の柔軟な対応、職員教育、環境整備を行っている。また、地域に密着しながら、認知症への理解の啓発活動も含め地域と共存、共生できるように連携をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域に馴染み、地域の高齢者支援の拠点としての活動が活発に行われている。ホーム主催の夏祭りでは、櫓を組み、ボランティアによる出し物や鞠智城のキャラクター「ころう君」も出場するなど、本格的な祭りを企画して、多くの地域住民の参加を得ている。徘徊模擬訓練は、市や警察、消防署の協力を得ながら、住民を巻き込んだ訓練が行われている。訓練後は、老人会の炊き出しや、救急訓練、花火大会と盛り沢山の企画で、協力した中学・高校生や地域住民等にとって、楽しみながらも有意義な1日となっている。・利用者一人ひとりの思いを汲んだ支援に努め、また、利用者の力を活かすケアによって、穏やかに、自分らしい暮らしが実現できている。利用者・家族のきづなを深める取組にも尽力しており、家族の訪問が多く見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり ともに笑い 理想の生活」の理念のもと、生まれ育った地域のなかで、個々のペースでゆったりと生活して頂けるように実践している	昨年度、全職員で従来の理念を見直し、目指すケアのあり方を分かりやすく表現した理念を作り上げた。見直しの過程で、利用者一人ひとりの意欲を高め、毎日を楽しく暮らしてもらいたいという意識が職員に深く浸透し、日々の細やかなケアの実践に努めている。カンファレンスや介護場面の中で具体的なケアを捉え、理念に立ち返って見直すようにと指導が続けられ、サービスの質の向上が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとの行事(夏祭り・徘徊模擬訓練等)に地域の保育園、小中学校などに参加して頂くことや、中学校の運動会見学など地域との交流を実施している	開設から6年、地域交流に積極的に取り組み、地域に無くてはならない存在になっている。恒例の夏祭りや餅つき会は、隣接する併設事業所と合同で行い、多数の地域住民の参加を得ている。特に夏祭りは、会社代表者自ら櫓を組み立て、備品調達に奔走するなど、熱意を持って取り組んでいる。音響設備の提供や多くのボランティアの協力も得られ、200人規模の一大イベントとして、利用者や住民の楽しみ事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供ボランティアの受け入れや、地元中学校での認知症サポート養成講座等への参加、また事業所を核とした地域との徘徊模擬訓練を通して、地域の方々の参加を促し、認知症の理解と啓発活動を実践している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月おきに実施し、当事業所の事業報告等を行い、意見を頂いている	運営推進会議には、警察官や市職員、地域包括支援センター、認知症サポートリーダー、社協、民生委員等、多様な参加を得ている。毎回、会議の初めに「あだ名」や「ストレス解消法」など、テーマに沿った自己紹介を行っている。笑いの中で和やかに開催されている。ホームからは、資料配布や写真を使って、ホームの状況をわかりやすく説明し、参加者の理解を促している。会議を通して、ホームと参加者との協力関係が築かれ、ボランティアの紹介や、行事等でも大きな協力が得られるようになってきている。	家族は、日常の訪問は多いが、会議への参加は少ない状況が見られた。仕事の都合や遠方に住んでいるなど、参加できない家族の事情もあるが、声掛けや日時調整の工夫等、参加を促す取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当市役所関係者との連絡や支援事業の協力など日々実践している	市担当職員や地域包括支援センターとは、運営推進会議以外にも連絡を取り合い、情報交換を行っている。市が推し進める徘徊模擬訓練では、市職員と話し合いを重ねながら、併設の小規模多機能事業所と共に主体となって取り組んでいる。警察(パトカーも出動)や消防署、住民を巻き込んだ本格的な訓練が実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修やマニュアル作成し、全職員で積極的に取り組んでいる。玄関、居室、窓等の施錠はせず、自由に出入りできる状況である。また、スピーチロックにも注意を払いながら実践している	拘束に関する内部・外部研修の参加を勧め、介護現場でもスピーチロックになりかねない声掛けを互いに注意しあうようにするなど、全職員の意識が高められている。利用者が自分らしく暮らすことを目指したケアに努めており、「行動の制止をしない」を大前提に、見守りと本人の思いを汲み取った対応で、転倒等の事故防止と共に、利用者の心の安定が図られている。車いす移動の人も、両足を使って自操出来ることに気付き、フットレストを取り外し、全職員が利用者の足元に注意を払うことで、怪我することもなく過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や、会議、事業所内での利用者様、スタッフ同士の連携強化などを実施し、利用者家族とも連携している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や、職員会議において学ぶ機会を作って、必要時には活用できる体制を整えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎契約ごとに、当事業所の理念、事業内容等詳しく説明し、ご本人、ご家族の同意のもと契約締結している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年実施し、その場で意見を頂く機会を作っている。また運営推進会議での家族の出席など毎回ではないが機会を設けている状況。今後も質の向上に向け環境作りに努めていきたい。	毎年、11月11日の「介護の日」に、併設の小規模多機能事業所と合同で家族会を開催している。家族会は、旅館で食事を共にし、お酒も入って打ち解けた雰囲気の中で行われ、スライドでホームの様子を紹介したり、家族同士で家庭介護の苦労話も飛び交って、家族の癒しの場となっている。家族会だけでなく日々のコミュニケーションの場でも、意見を聴き取るように心がけてはいるが、運営に関する意見は少ない状況にある。個別の要望は多く出され、要望に沿った支援が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、その時々の問題点を職員、幹部から挙げて解決策を検討している	毎月の職員会議や年2回の個別面談等、職員が意見を言い出せる機会が作られている。管理者・主任・職員間の人間関係が良好で、意見を言い出しやすく、全員で話し合っ決めてという雰囲気がある。行事の企画や勤務体制など、職員の意見が反映されている。職員は規定以上に配置されているが、病欠等急な人手不足には、併設事業所から応援の人員が得られる体制も作られており、職員の聞き取りでも「働きやすい職場」との声が聴かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には日頃より勤務状況・実績により、評価する事を明らかにし、意欲の向上に努めている。各職員ごとの状況により条件を決め、臨機応変に変更も実施している 半年に一度個別面談にて個々に相談に応じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加を促し、就業中の資格取得の支援も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加。地域の行事を共同で実施する等職員間での協力を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は特に、密に接する機会を作り、ご本人の状態を観察し、その時に応じた対応を実施している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後の状況報告を電話や面会を何度も行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の経過を見ながら、じっくりとお話しを聞く環境を作る。ご家族の要望を含めてどのような支援が必要か否かを検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る能力の把握に努め、利用者様どうし の関係作りやスタッフと共に家事をすること、食事を共にすること等日頃より家族として対応するように心がけて支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とふれあう行事の企画や、自宅への外泊促し等実施している。また、ことあるたびに電話連絡を入れたり、面会促しを行う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の行事参加・事業所での行事招待等により、ふれあう機会を作っている。	契約時に家族訪問の重要性を伝え、入居中も訪問が少なくなってきた家族には電話で促したりと、熱心に訪問を勧めており、頻回に訪れる家族が多く見られた。受診付き添い時に、馴染みの店やレストランへの外出も勧めており、本人・家族との親密な関係作りに努めている。地域行事に利用者を伴ったり、ホーム主催の行事に家族や地域住民の参加を呼び掛けたりと、馴染みの関係作りに努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で行事などを通して関わる機会をつくっている。利用者同士の関係悪化など事前に察知し、対策を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は御家族へのお声かけや、相談できる体制を作り、開かれた事業所作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人が行いたいことを各職員で把握し、共有化して実施可能な事から検討、実施している。出来る限り本人の希望に沿った暮らしを提案する。	利用者の生き生きとした暮らしの実現に全職員で取り組んでおり、利用者の思いを把握し、個別ケアに活かすよう努力している。思いを上手く伝えることができない利用者も多いが、過去の暮らしぶりを参考に、表情や態度から思いを推察している。利用者のできる力を見出し、高めていくことにも心がけており、日常の会話では発語に障害を持つ人も、文章を音読することは円滑にできることに気づき、敬老会等で挨拶文を読んでもらうことで、本人の自信を取り戻すことができた例も見られた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前から各職員でアセスメントに努め、家族からの情報収集や本人に尋ねるなどし、サービスに活かせるように対策を検討している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を通して御本人が出来る事の発見、見極めを行っている。できる事への支援強化に努める			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様ごとにカンファレンスを定期的実施して、介護計画変更等は随時行っている。	利用者毎の担当職員が介護計画の素案を作り、介護支援専門員が再検討して計画策定する仕組みが作られている。策定までの過程で、本人の意向や家族の要望を聞き取り、看護師を含めた全職員で検討する機会を持っている。介護計画は3ヵ月毎に見直す他、心身状態の変化によって随時見直し、現状に即したケアの提供に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の各職員同士での情報交換、介護方法など日々の申し送りや毎月の会議でのカンファレンスにて検討を行い経過記録にて情報の統一、計画変更等に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状態にあわせた柔軟なサービスの迅速に変更を行うとともに、基本的には病院受診は毎月家族付添のもと、定期受診をお願いしているが、利用者様の状態や家族の状況に応じてスタッフで付き添い受診行ったり、車椅子対応車にて送迎の支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のかかりつけの病院や、買い物同行など地域に出向く活動に努めているが今後より積極的な地域資源活用に繋がるよう課題とする所。民生委員との連携、地域ボランティアとの関わりを強化し、支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族が安心して医療を受けられる様に、情報共有を図っている。また、往診対応可能なクリニックとの連携あり。	かかりつけ医は本人・家族の自由選択としているが、協力医は利用者への理解が深く、予防接種や発熱時等には往診し、緊急時の24時間対応や看取りの時の細やかな対応もあることから、ほぼ全員が協力医をかかりつけにしている。受診は、病状を家族に理解して欲しいという意図と、本人・家族の触れ合いの機会になるという意義を踏まえ、家族が付き添うこととしている。医師には、利用者の状況を文書にして家族に持参してもらったり、電話で伝えたりして、情報交換を行っている。	家族アンケートから、受診の付き添いを負担に感じている家族が少数見られた。家族に付き添ってもらうことの意味を家族会等で説明したり、個別の話し合いを行うなど、家族の理解を深める取組に期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付いたら、すぐに看護師に相談できる環境にある。早期に指示をもらう事で家族への連絡調整もスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は電話での情報提供や、早期に情報提供書を作成し、医療機関に送付している。退院時には経過のサマリーなどをもらうように事前に依頼している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援が必要な場合、事前に実施できる内容や対応方法などを御家族ご本人に説明を行い、了承を得ている	看取りケアの実績があり、本人・家族の意向に沿った支援が行われている。細やかな状態観察を行い、最後までその人らしい暮らしが全うできるようにと、医師と連携しながら、心身のケアに努めている。家族へのグリーフケアにも心がけ、本人と家族との触れ合いの時間を大切に支援が行われている。亡くなった後も、1ヵ月間は居室をそのままにして、お花を供えており、荷物を引き取りに来た家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急法等の研修を消防署に出向いて直接実技指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応方法マニュアル作成や、年に2回の消防訓練を実施。夜間は職員体制も少ない為、地域消防、民生委員との協力体制確立に向け努力が必要な状況。	年2回の避難訓練は、隣接の小規模多機能事業所と合同で実施し、連携体制が築かれている。近隣に民家はないが、少し離れた一帯の民家とは、夏祭り等で顔なじみになっており、協力が得られやすい関係にある。夜間想定での避難訓練で、住民の参加が得られると、更に良いと考える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の方針にも年上とした丁寧な言葉使い、尊厳の保持という所で会社一丸となって取り組んでいる。	会社全体で、利用者を尊重し、大切にすることを育む教育に力を入れており、接遇研修も定期的に行われている。コミュニケーションは、利用者に馴染んだ方言で交わされ、優しく声掛けする様子が見られた。職員の聞き取りでも、利用者に愛着を感じ、プライドを傷つけることがないようにと接していることが伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見、以降は常に伺い利用者本位で実施している。自己決定できる環境作りを行いながら支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間を作らず、ご利用者様の生活様式に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前の暮らしを把握しその方々に合わせて実施している。能力の維持にもつながるように、出来る事は自身で取り組んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や各利用様の意向を聞き実施している。毎食一緒に食べ片付けなどを行っている。野菜の下準備や調理等共に行っている。	併設事業所と一括して調理を行っているが、ホームでも1品は利用者と共に調理することが多く、調理を楽しむ機会が作られている。盛り付けや片づけは利用者の力を活かし、役割意識を高め、意欲の向上が図られている。食事中は、各テーブルで職員も一緒に食事し、さりげない介助と会話で楽しく食事できるように心がけている。誕生会では、本人の希望を聞き取り、好みのメニューを提供したり、家族との外食を勧め、喜んでもらえるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の把握、水分量については個別で摂取しやすい飲料の持参を家族に相談依頼し、状況に応じた対応を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には利用者全員に口腔ケアを実施し、歯茎の状態や義歯管理、仕上げ等出来る所はして頂き観察を行っている。定期的に検診も実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日状況観察し対策を検討実施している。出来る限りおむつ脱却への支援を日中中心にトイレでの排泄が少しでもできるようケアしている。	利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、トイレの声掛けや介助を行い、失敗を少なくしている。昼間は布パンツに尿採りパッド、夜間はリハビリパンツを着用する人が多いが、利用者の状態に応じて、夜間にもトイレの声掛けを行い、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに食事内容や水分摂取状況を把握し、日常の中で歩行の機会や体操を行ったり予防に努めている。また、病院に相談しながら排便コントロールもおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の心身状況に応じて日程変更や入浴時間を柔軟に対応している	入浴は週3回、日程を決めてはいるが、利用者の体調や気分を配慮して柔軟に支援している。入浴を嫌がる人や、浴槽の出入りが困難な人の為に、シャワーチェアのまま全身に温水のミストがかかる「ザ・シャワー」を設置、利用者に好評を得ている。入浴中はゆっくりと会話を交わし、気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて対応している。共有スペースには畳の間もあり、くつろげる環境となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は常に見れるところに準備し、変更があった際の情報共有をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来ることを毎日実施することに心がけている。プランにも反映させ能力の維持向上に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聞き、家族に協力を得たり、事業所の行事等で実施している。御家族からも季節に応じて積極的に外出に連れて行かれることもある。	天気の良い日は散歩に誘い、月に1度は買い物に出かけたりと、日常的な外出支援を行っている。また、利用者の出かけた所を聞き出し、山鹿桜園や前川水源の蓮等の花見や、来民商店街の初市などの懐かしい場所に、毎月1～2回、車で出かけている。墓参りや外食等は、受診の帰りに家族と一緒にに行けるように勧めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としては実施に至っていない。また、金銭的な所での直接の訴えもあっていない。ただし、御家族との買物などはされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頂いた手紙などは居室に掲示して見れるようにしている。遠方の御家族から電話が掛かった際は御本人へ直接受話器を渡して対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活で不快がないように心がけている。ホールの掲示物は季節の物を毎月掲示している。	リビングには、くつろぐ利用者の姿が見渡せるオープンキッチンや、掘りごたつのある和室が続いている。畳の感触を好む人は、和室で食事したり、寝転んでリラックスしたりと、家庭的な光景が見られた。室内の飾りつけは、季節感が感じられるように工夫しており、9月は利用者と共に作った可愛いトンボが、壁面いっぱい乱舞して、秋をアピールする飾りつけになっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者ごとに席の配置を考え、談話できる環境を作って対応している。一人ひとりが過ごしやすい居場所作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の家族の写真を掲示したり、使っていたタンスなどを持って来て頂いて落ち着いた環境作りに家族とも協力頂きながら対応している	環境の変化で利用者を不安をさせないように、自宅で使っていた物の持ち込みを家族に促し、居心地よい部屋作りが行われている。テレビや筆筒、寝具も入居の前日まで使っていた物が置かれ、家族写真や好みの小物類が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々で利用者様毎の動線を考え、環境を整えている。居室は分かりやすいように本人の名前を札かけしている。車椅子での移動も十分に可能な広さを確保している。		